

(令和8年9月9日)

(高専教育の質保証、向上と魅力向上)

- 量的拡大を進める際には、質保証と一体的に議論することが不可欠である。既存の質保証の枠組みを活用しながら、高専全体の教育水準の維持・向上を図る視点を最終報告に盛り込むべきである。
- 進路変更への柔軟な対応と学生支援体制の強化を進め、安心して学べる環境を整備することで、高専教育の質的向上につなげるべきである。
- 高専教育において、教養教育や語学教育を一層充実させ、高等教育機関として分野横断的な幅広い教養、マネジメント力や国際的な能力を育成することが重要である。
- 高専との接点が少ない層に対する認知度向上は重要であり、高専の取組に加え、国にも高専教育の意義や将来性を積極的に発信していただきたい。
- 高専のブランド力と国際的な通用性を高め、国内大学への編入だけでなく、海外のトップ大学への進学を促進することで、高専教育の価値を一層向上させるべきである。

(国際通用性の確保)

- 高専本科卒業者への学位授与制度を導入する場合は、学位授与主体の業務量や体制を十分に検証し、検討すべきである。

中央教育審議会 大学分科会における主な御意見の概要②

（高専の役割・機能）

- 高専の役割は時代とともに変化しており、理工系に限定せず、社会ニーズの高い他の分野にも対象を広げ、専門人材を育成する新たな高等教育機関として高専の役割を再定義することが必要である。
- 年功序列・終身雇用が変化する中、高専には専門性に加えてマネジメント力やリーダーシップを備えた人材の育成が求められる。技術力だけでなく、組織全体を見渡しながらか国内外で活躍できる専門職人材の育成を高専の重要な役割として位置付けるべきである。
- 高専は地域の発展を担う人材育成機関として重要な役割を果たしている。特に優秀な中学生が進学する中、地域産業を支える人材の育成への期待は大きい。一方で、多くの学生が進学等により地域を離れている現状も踏まえ、学生の主体的な進路選択を尊重しつつ、地域における高専の役割や人材輩出の在り方について検討することが重要である。
- 多様な学びの選択肢を相互に接続できる柔軟な教育体系の構築が求められる中、高専はその可能性を持つ制度として期待される。

（高等教育全体）

- 高校や専修学校、専門学校、大学など他の教育制度との役割分担を明確にし、教育体系全体の中での位置付けを整理することが重要である。
- 今後の少子化を見据え、高専のみならず、大学・専門職大学などを含めた高等教育機関全体のポートフォリオを国家的視点で設計することが重要である。